

# ビルマ語専攻

異言語を学ぶことは異文化を体験することです。ビルマ語の勉強を通して、ミャンマーの土地に育まれた人々の生活やものの考え方に触れ、異文化について深く考えてみたい人を歓迎します。



あるお寺の境内で出会った子どもたち  
(モン州モーラミヤイン市、2003年2月)

「おもしろい文字ですね」

「目の検査のようですね」

検眼表の円い図形や知恵の環を思い起こさせるユーモラスなビルマ文字で書かれたビルマ語は、ミャンマー連邦(1989年対外的な英語呼称 Burma を Myanmar に変更)の公用語であり、6,242万(2011年推計)国民の共通語(母語人口はその4分の3強)です。

ビルマ語の最古の文献は通称ミャゼディ碑文(1112年)で、四面体の石柱にバガン朝のチャンシッター王の遺徳を讃えた顕彰碑がモン語・パーリ語・ピュー語・ビルマ語の4つの言語で刻されています。今では死語となったピュー語が含まれていることから、この碑文は「ビルマのロゼッタ石」と呼ばれたことがあります。

ビルマ語の話し手の社会は、インド文明とシナ文明の影響を受けた点で、また、稲作文化を基調とする点で、東南アジアのほかの地域との共通性もっています。宗教的には、南伝上座部仏教を信仰する人たちの社会と、社会規範や価値観を共有しています。さらには、少数民族との接触による文化の相互作用も、東南アジア大陸部に共通にみられる現象です。こういった関心は、遠く北方の雲南・貴州の地の人々の文化にも私たちが誘ってくれるでしょう。

ビルマ語を専攻言語として選ぶ人たちは、当然のことながら、まず、ビルマ語の運用能力を身につけることが求められます。そして、その背後にある基層文化を言語・文化・社会の各面にわたって、総合的に学ぶこととなります。また、関連する言語として、チベット語のほか、カレン語など少数民族の言語も学ぶことができます。

(注:「ビルマ」という地名は、幕末の地理書で、眞作省吾の『坤輿図識』(1845年)にみえる「毘爾滿」を嚆矢とするようである。—平田由美氏の教示による)



ミャゼディ碑文  
(バガン博物館蔵のA碑文)

「タミンサーピーバーラー」

ဝမ်းစားပြုံးပြလား။ (食事をすませましたか)

学生の声

3年 森下 聡美

ミンガラバー! (こんにちは!) 近年、ミャンマーに関するニュースが取り上げられることが多くなり、関心が向いている人も多いのではないかと思います。皆さんはミャンマーと言ったら何を連想しますか? アウンサンスーチー女史、暑い国、仏教、ビルマの竪琴、少数民族、など…。一風変わった“黄金の国”ミャンマーの言語や文化、社会を私たちは学んでいます。

ビルマ語は、視力検査のまるのようなビルマ文字が使用され、ビルマ族を中心としたミャンマー国内で話されていて語順は日本語に似ている、といった特徴を持ちます。ビルマ文字を覚えるのは一苦労ですが、入学して数か月後にはあの丸くて謎めいた文字をスラスラ読めるようになっていくと思うとワクワクしませんか?

写真は、友人とミャンマーへ初めて旅行をしたときのものです。顔に塗っているのはタナカーと言い、清涼感のある天然の日焼け止めのようなものです。ミャンマーでは子供からお年寄りまでがこのタナカーを塗っていて、上手に絵を描いている人もいて、とても可愛いです。一緒に写っているのはお土産屋さんのお嬢さん。私のたどたどしいビルマ語を一生懸命聞いてくださっていたのを覚えています。

ビルマ語専攻に入った理由は人様々ですが、みんなミャンマーの魅力にどっぷりとはまっています。一緒にミャンマーについて学びませんか?



留学生体験記

4年 平野 正幸

私は2013年の12月から翌14年の9月までミャンマー最大の都市ヤンゴンに留学し、ヤンゴン外国語大学へ通っていました。大学とは言っても欧米での語学学校のようなもので、私が行っていたのは「外国人にビルマ語を教えるコース」でした(ミャンマー人にとっては普通の大学です)。授業の形式は今皆さんが通っている日本の高校と同じような感じです。平日は毎日、朝9時から午後2時半まで授業があり、日本の大学とは違って時間割はすでに学校側が決めていました。クラスには中国人やインド人がいて、中国人とビルマ語でコミュニケーションを取るといった奇妙な体験もできます。

学校以外で主だったところでは、ビルマ人の先生のところで「ビルマの竪琴」を習っていました。弾き方はすべてビルマ語で教えてもらうので、ビルマ語の上達にも役立ちました。他には、4月と5月は学校が休みなのでミャンマー各地を旅行しました。ミャンマーの中にはビルマ語を母語としない民族もいることを知り、貴重な体験ができました。

当時、留学先と言えば私が通っていたヤンゴン外国語大学しかありませんでした。しかし、今では留学先も増えていて、留学以外の手段でミャンマーに長期滞在することも比較的簡単になってきています。ヨーロッパ留学は経済的にも負担が大きいです。ミャンマーはまだまだ学生に優しい国です。ぜひビルマ語専攻に入ってミャンマーを体感してみてください!

